

本学看護学科教員 2 名がベトナムビントゥアン医科大学校に 2 回目の訪問をしました。

平成 27 年から国際交流をしているベトナムビントゥアン医科大学校 (BTMC) に、平成 28 年 9 月 5 日から 8 日の 4 日間、看護学科教員 2 名が、昨年度に引き続いて 2 回目の訪問をしました。昨年の訪問時に比べ、ホーチミン市の地下鉄や高速道路の整備状態には目を見張るものがありました。今回の訪問の目的は、BTMC 教員に対する高齢者ケアに関する講義と看護技術の指導でした。ベトナム社会は急速に高齢化が進んでいるので、BTMC では高齢者看護ができる看護職を養成する必要があります。そこで本学の老年看護学等の授業を参考にして、講義とケア技術の演習を行いました。看護科の先生方はとても熱心に取り組み、日本の看護を学ぶとともに、ベトナムの自宅での高齢者看護の方法を私たちに教えてくれるなど、相互に教育情報の交換をしました。また、高齢者の健康を取り巻く日本とベトナムの現状を発表しあい、両国の保健医療情報も相互に理解しました。ビントゥアン省内の社会保護施設とリハビリテーション病院を見学させていただき、自宅で過ごしているように配慮された施設環境と伝統医療など、ベトナムの特徴的な医療・福祉の現場も見学できました。この訪問で、日本とベトナムの医療福祉システムや現場実践等の違いを実際に見ることで、日本の高度専門分化した医療専門職のチーム医療のあり方を再考するよい機会になりました。

